

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービスに伴いグループホーム開所時の理念を踏まえ、理念の再構築を全職員で行い掲げている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝のミーティングにて理念を認識し職員の目に付く所に掲示して唱和している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族や訪問者があるときには、よく目につく所に理念を掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日々の暮らしの中で利用者と散歩やお買い物に出掛け挨拶を交わしたりしている。近隣の方に気軽に来園してもらえよう看板を設置したり、併設の利用者にも訪問してもらっている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の行事等には利用者と共に積極的に参加し交流している。隣設の保育センターの行事にも参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々に介護や認知症について理解して頂けるよう、講習会の講師等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員で話し合い、外部評価の必要性についても話し合っている。 外部評価の結果を踏まえ活かして、改善点は速やかに改善して質の高いサービスの向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日頃の取り組みや方針を話し合っている。 意見、要望があった際には職員へ伝達し、話し合いの場を設けサービス向上につなげている。	○	現在2ヶ月に一回の開催と決められているが、実際には6ヶ月に一回の開催しかできていない為、今後、2ヶ月に一回の開催を行なって行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	契約、規約の変更時には、その都度報告に出向いたり、毎月1回ホームだよりを送っている。 トラブルや相談事がある場合には、包括支援センターや市町村と話し合っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	現在この制度を利用されている方がいない為、勉強、理解不足である。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より虐待のないケアを行っている。 研修会には積極的に参加し虐待について話合う場を持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時には必ず充分説明を行い同意を頂いた上で理解を得ている。 不安・疑問点があれば、その都度説明して理解して頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見・不満・苦情等には、その都度全職員で話し合い、解決策を見つけ、日頃のケアに活かしている。 又、意見箱を設置や苦情解決処理機関の掲示を行っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には必ず状態、状況報告を行い、緊急時や急用時には、電話連絡を行い記録している。 毎月1回のホームだよりにて職員の異動や利用者の個人個人の状況、近況報告等も記入している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃よりご家族から意見、不満、苦情を受け付け入れやすいなじみの関係を心掛けている。 面接時等で意見や困っていることなど尋ねている。 そこで出た事は、全職員で話し合い、今後の課題として、よりよいケアや運営につなげている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝のミーティング、月1回の職員会で意見や提案を聞いている。 運営者も参加できる際は参加してもらっている。 管理者は日頃より、現場に立ち意見や提案等が出しやすい雰囲気を提供している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の今まで馴染んできた生活リズムを崩さぬようお一人お一人に合わせられるようなシフトやローテーションを組んでいる。 管理者はシフトに入らない事で調整がとれ柔軟な体制がとれている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限度の人数となっている。 異動時には、利用者にはダメージを与えないよう配慮し、新しい職員は早くなじみの関係が築けるよう全職員が配慮して努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などは段階に応じて平等に参加できるようになっている。 研修後は、勉強会を開き発表を行い情報交換を行っている。	○ 外部より指導者を招き受け入れをし勉強会を行なっていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協、県社協、阿波市等が主催する研修会に参加しネットワークをひろげている。 同業者との交流なども研修会を通してでき、他のホームなどの見学や受け入れを行い双方のサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃より管理者や職員に対し話を聞いてくれたり、話合う場を提供して現場を理解してくれている。	○ 休憩時間等にゆっくり寛げる場所の確保。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現場に頻繁に足を運び、現場を理解して全体を把握している。 又、職員が向上心を持って働けるよう努めている。 資格、免許等の取得にあたり支援をし、職員の健康に配慮し、年2回健康診断を実施している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活状態を知る為、併設のデイサービス、ショートステイの利用時にホームの方へ招いたり、こちらから訪問している。 その際、信頼関係を築けるよう本人の話を親身になって受け止め解決策を考えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、依頼があった場合、親身になり話を聞き、状態を把握して適切なアドバイスができるよう心掛けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人・家族の思いを受け止め、改善に向けたアドバイスを広い視野からみつめ、本人、家族にあったサービスを提供できるよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度か本人、家族に見学においでしてもらい見学していただいたり、本人が併設のデイサービス、ショートステイを利用されている場合はそこへ出向き顔馴染みの関係を築けるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であると言う事を念頭におき、敬い日々生活を送っている。 日々明るく楽しく利用者、職員が協力し合い生活できるよう声掛けには充分配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりこまめに状況、状態を報告し家族の思いも聞き、話し合い信頼関係を築く努力をしている。 面会時には、些細な事でも本人のできることなどを見つけ伝え共に喜んだりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の思いや状況を把握して、行事参加を働きかけたり、外出・外泊、一緒に過ごせる時間がもてるよう働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族の要望があれば、お墓参りやお寺参拜に出掛けたり、知人との関係が途絶えぬよう手紙や電話連絡の支援等を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で過ごせる空間や生き甲斐を持って何かをやる空間等の環境作りを行い、職員も利用者同士が良い関係が築けるよう必要に応じ声掛けや見守りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、併設施設のショートステイを利用されている場合などは、出向いて行き馴染みの関係を継続させている。家族等にも電話連絡を行い状況を尋ねている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より本人の思いや希望を理解できるよう耳を傾けたり、表情を読みとり声掛けをしている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに充分気を付け、家族や関係者に協力してもらい情報をえたり、日頃の生活の中で本人と接する事で見いだせるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お一人おひとりのペースに合わせてサポートしている。できること・できないことシートを活用し有する力等の現状を全体的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より、本人、家族等から意見を聞いたりしたことを踏まえ、本人がよりよく生活して頂けるようカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際は、その都度検討、見直しを適宜行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察記録、生活記録は細かいことまで記録したり、毎月体重測定をおこなって健康管理にも留意している。気づきノートを活用し、できたこと、介護方法等少しのことでも記入して話し合い介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、本人、家族にとって負担にならないよう受診や入院の回避によりホームで継続して生活できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の保育センターの子供達と交流や中学生の職場体験学習受け入れなどでより良い暮らしができています。1ヶ月に1回市のボランティアさんの訪問もある。職員の働きかけで音楽ボランティアさん等の訪問もある。	○	公共施設との関係や連携が少ないので積極的に働きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居希望を依頼されたケアマネジャーさんや併設施設に訪問しているケアマネジャーさんとも話し合う場をもっている。	○	今後、本人の思いや希望をかなえられるよう広い視野から地域の他のサービス事業所やケアマネジャーさんとの交流を深めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域の包括支援センターの方に運営推進会議に参加してもらっている為、情報交換や話し合う場があり協働できている。	○	成年後見制度権利擁護についても地域包括センターの方に指導してもらいたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によりかかりつけ医を決めている。日頃より、医療機関、家族とも連絡を密に取り関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	医療機関、訪問看護と連携を取り、利用者、家族にとって気持ちを大切に安心して終末期を迎えて頂けるような取り組みをしていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃より、声掛けや介護には気をつけ、本人のプライドを傷つけぬよう細心の注意を払っている。 記録等も厳重に保管し個人情報保護に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声掛けを行い接している。 意思疎通困難な方には、日頃より関わりを多く持ち、本人の気持ちに添えるよう努力しているなど、状態に合わせて自己決定を行えるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースに合わせて無理強いせず本人の過ごし方を支援している。サポートしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を尊重しつつ、外出や行事などでは、楽しくお洒落ができるよう支援している。 時には、他の利用者の意見も参考にしている。 毛染めやお化粧品も希望があれば支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、利用者に参加してもらったり、嗜好の調査を行い献立に役立っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お一人おひとり状態に応じて提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿、排便チェック表を利用し習慣や排泄パターンを把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。排泄用品使用については、目標をたて見直し、相談、検討をし自立にむけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めず、利用者の希望を優先している。拒否される方には、声掛けの工夫、職員をかえて誘導したりしてできるだけ入浴してもらえよう努めている。	○	浴室、浴槽が暗く殺風景な為、くつろいで入ってもらえよう工夫したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	共同空間にソファーや畳を設置し、休息したり、横になれるようにしている。冬場には、こたつをしてくつろいでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人おひとりの得意な事を見つけ、本人の自信を高められるような声掛けや支援をおこなっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少量お金を持っている方もいる。お買い物に出掛けた際、自分で支払いして頂けるよう一緒に付き添ったり工夫して自立支援につなげている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、体調に応じ希望を聞き、散歩、ドライブ、お買い物等、戸外への外出を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の花見、大型スーパー、映画鑑賞等に出掛けている。又、お墓参りや馴染みの場所への外出支援も行っている。利用者と家族、職員でお食事会も開催している。	○	今後、もっと利用者と家族と一緒に外出できるよう話し合い機会を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人と関係が途絶えないよう電話連絡やホームだよりには、本人が家族へコメントを書いたり、代筆を頼まれる場合など対応もしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日頃より、家族等と馴染みの関係を築けるよう努めている。自由に周囲の方や関係者が訪問しやすいよう看板など設置している。併設のデイサービスやショートステイの方も気軽に訪ねてきてくださる。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族等への説明を行い同意書に署名していただいている。日頃より、身体拘束をしないケアを心掛けている。現在、身体拘束は行っていない。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	地域の方々、併設の施設に理解してもらえるよう協力をもとめている。利用者が外出しそうな時には、さりげなく声掛けをしたり、一緒に外出したりして安全に生活していただけるようにしている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず利用者の在所を把握し、さりげなく見守り、声掛けが必要な時は行っている。居室内で長時間過ごされている時は訪室している。フロアー、台所は一体となっており、全居室がみえるようになっている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所用品や危険物などは、夜間施錠できる所へしまっている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者、お一人おひとりに想定できる危険を予測して話し合い予防法を検討している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が緊急手当の訓練を1年に1回施行している。緊急手当の対応法の研修会は定期的でないが行っている。緊急対応マニュアルがあり全職員に周知、徹底できるよう、シミュレーションも行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	対応マニュアルがあり、それに基づき年2回火災訓練、避難訓練を行っている。地域には運営推進会議等で協力してもらえよう働きかけている。	○	非常食や非常持ち出し物等の準備も検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員間でお一人おひとりについてのリスクについて日頃より話し合いの場を持ったり、サービス担当者会議等で話し合っている。話し合いの結果を家族に説明し、協力してもらいながら抑圧感のない生活に向け理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が普段より様子の観察をして把握し早期発見に努めている。変化に気づいた時は、マニュアルに基づき速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬について、処方箋や看護師に尋ね把握している。又、服薬の一覧表も利用し理解しやすいようにしている。処方箋のコピーはお一人おひとり個人ケースに添付している。服薬確認も必ず行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防の為、水分量や食材の工夫をしている。毎日の体操に加え、便秘解消の運動やマッサージなども取り入れて、スムーズな排便ができるよう工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食前には嚥下をよくする為にうがいを行ったり、毎食後には必ずお一人おひとりにあった口腔清掃を行っている。入歯管理が困難な方には、洗浄剤を就寝中に使用し、預かり保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は必ず職員と共に摂取する為、時折声掛けを行ったりして気を付けている。 食事量、水分量等も毎食チェックし記入している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防の為、新しい情報を得られるよう保健所主体の研修会、勉強会に積極的に参加してその結果を報告している。 職員はもちろん、利用者、来園者にも消毒や手洗いをしている。 ただようようにしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には充分気を付け消毒を行っている。 食材は毎日お買い物に出掛け新鮮な物を選んでいく。 点検係を交代で行いこまめに食材管理を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	訪問して頂きやすいよう看板を設置している。周囲には花を植えたり親しみやすいよう工夫している。 玄関周りには季節の花を生けたり、節句の段飾りを飾ったりしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに過ごしてもらえるよう季節の音楽や童謡を流したり、季節の花を飾っている。 懐かしい物、馴染みの物や季節の物等を取り入れている。 不快な音や臭いは出さないよう努めている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下にソファをもうけたり、外周りにもベンチをもうけ独りで過ごしたり、気の合う同士で思い思いに過ごされ居心地の良い空間を提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合い、本人の使い慣れた物や家具を持参してもらったり、大切にしている物、馴染みの物を活かして以前と変わらない生活が送れるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機を活用したり、空気の入換えを1～2時間に1回行っている。 各居室に冷暖房完備してある。 共用スペースには、温度計、湿度計もあり空調管理には配慮してある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々安全に生活出来、身体機能が活用できるよう、環境づくりを工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援を目指し、お一人おひとりの持てる力をみつけれるよう、全職員で不安や混乱を取り除ける工夫の話し合いを行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周り、ベランダには花を植えたり、季節の野菜を作っている。 草抜き、水やりのお世話をしている。 ベンチをおき、天候の良い日などは日光浴や夕涼みをし自由に過ごされている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、職員が穏やかで明るい笑顔の中で家庭的な雰囲気である。

田畑や河川といった自然に囲まれ、四季を感じることができたり、交通の便もよく環境に恵まれている。地域の方々にも暖かく接して頂き、だんだん地域に根付きつつある。

四国八十八ヶ所のお遍路路沿いにホームがある事を活かして、お接待を行なえるよう看板を設置し気軽に尋ねてもらえるようにしている。

お遍路さんの訪問時は休息して頂き交流を持つことで利用者も喜んでくれたり、又、お遍路さんには、グループホームや認知症へも理解にも繋がっている。